

中央地区

北陽小図書 ボランティアの活動

～図書修理講習会の様子～



男鹿市学校支援地域本部 男鹿市立北陽小学校



◇活動の紹介

実施日 平成21年11月25日(水)

場所 マルチメディア室

対象 図書ボランティア7人

内容 「図書修理講習会」

・活動にあたって

北陽小学校では、昨年度から学校支援地域本部を設置し、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てようとする機運が高まっている。コーディネーターが週4日学校にいて、学校とボランティアの連絡調整に当たっている。

・これまでの活動について

今年度は図書ボランティアの募集をし、学校の各図書コーナー(5カ所)の整備や読み聞かせを実施している。また、市立図書館との連携で、図書のセット貸出や司書によるブックトークの研修会(教職員向け)も行っている。今回は、県立図書館との連携で、県立図書館職員を講師に招き、図書修理講習会(ボランティア向け)を開催した。

・本日の活動について

図書ボランティアは、図書修理をするのは初めてであるが、講師の説明を聞きながら、本に付いたセロテープをはがしたり、切れたページや背表紙に紙をあてて糊付けするなど、丁寧な作業を行っていた。カバーコーティングのやり方も教えてもらい、参考になった。

◇この活動を行って

実践者の声

○支援ボランティアから

- ・修理の方法がいろいろあることが分かった。良い経験になった。
- ・修理をするのが楽しかった。またやってみたい。
- ・これだけぼろぼろになっても読んでもらえることを感じた。次回からはみんなで直していきたいと思った。
- ・楽しい経験をさせてもらった。とても密度の濃

い時間だった。

- ・セロテープを使うのはダメだということが分かった。テープはがしがおもしろかった。
- ・家にある古い本や傷ついた本も、今日の経験を生かして修理したいと思った。
- ・これからも自分なりにいろいろ工夫しながらやってみよう。

○コーディネーターから

- ・図書修理講習会は初の試みだった。当日、インフルエンザの影響もあり、参加人数7名と少なかったが、その分きめ細かい指導を受ける事ができたように思う。
- ・修理のポイントは『やさしく、急がず、楽しんで』。この講習会を通して、今後の活動の幅が広がったように感じた。
- ・図書ボランティアの方々には、無理せず、気軽に、楽しみながら、学校に足を運んで頂き、息の長い活動にしていきたいと思っている。

成果、課題

図書ボランティアが学校の図書コーナーの整備や読み聞かせを行うことにより、子どもたちの読書環境が整い、本に関する興味関心も増してきている。更に、今回の図書修理活動によって、傷んだ本が蘇った。地域の方が本を大切にすることにより、その思いが子どもたちにも伝わると思う。

コーディネーターの浅野さんのお話では、「これまで行ってきた毎月の読み聞かせと図書環境整備に加え、今回学んだ図書修理も行っていきたい。」ということであった。現在、図書ボランティアはPTAがほとんどであるが、PTA以外の地域住民も増やしていきたい。

また、図書ボランティアの他にも、学校・地域の実状に応じて、『できる人が、できるときに、できることを』の精神で、無理なく学校支援の活動を広げ続けていきたい。

●活動のようす●

○読み聞かせの様子



○図書修理の様子



<傷んでいる本をチェックし修理方法を定める>



<カバーコーティングのやり方の実演>



<アイロンで温めるとテープがはがしやすい>



<いせひでこ作「ルリユールおじさん」を朗読>

ミシンが初めての子どもたちのために お手伝いできることがあったら

～大久保小学校ボランティア
「家庭科ミシン指導補助」の活動～

大久保小学校支援地域本部 潟上市立大久保小学校



◇活動の紹介

実施日 平成21年9月28日(月)

場所 家庭科室

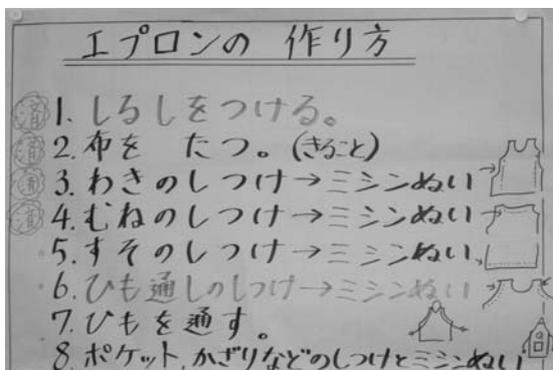
対象 5年1組 31人 5校時
5年2組 30人 6校時

内容 エプロン制作の学習支援

5年生の家庭科「布でつくってみよう」の単元は、子どもたちが初めてミシンを使う授業である。そこで、ミシンを使う最初の時間と、エプロン制作の最後の時間の2時間を地域のボランティアの方々に協力してもらうことにした。本時は単元の最後の授業である。

今回協力してくださったボランティアは8名で、グループに1～2名付いて支援した。ミシンの使い方をはじめ、しつけの仕方やアイロンのかけ方も手伝ってもらう子どももいた。また、ポケットの付け方や仕上げのひも通しも教えてもらっていた。

エプロンの作り方やミシンの使い方、縫い方の見本などを掲示していたので、子どもたちはもちろん、ボランティアの方も支援する際にやりやすかった。前は、ミシンでの直線縫いや返し縫いなどの縫い方の基礎を教えていただいた。



エプロンの作り方を掲示

ぬい方の見本を掲示



◇この活動を行って

実践者の声

○支援ボランティアから

- ・私たちは、図書ボランティアなどで学校に何度も来ている。子どもたちとふれ合うことができうれしい。
- ・コーディネーターに声をかけてもらって、今日初めて学校に来た。始めは緊張したが、とても楽しかった。また何かあったら声をかけてほしい。

○子どもたちから

- ・ボランティアさんが丁寧に分かりやすく教えてくれたので、とても良かった。
- ・また来て教えてほしい。

○学校の先生方から

- ・1人で31人に対応するのは個人差があるので大変である。ボランティアさんが各グループについてくれたので、とても助かった。
- ・学習発表会にエプロンを展示をするので、ボランティアさんを招待したい。

成果、課題

- ・子どもたちが先生を待つことなく、すぐに指導してもらえるので、時間のむだがなく、スムーズに制作が進んだ。
- ・ボランティアの方々が、子どもたちの役に立っているということを楽しんでいた。また、子どもとの交流を楽しんでいた。
- ・子どもたちは、お礼の手紙を書くなど、感謝の気持ちを持つことができた。

●活動のようす●



◇ボランティアさんへの手紙

こんにちは。
 先日の家庭科では、ていねいに説明していただき、ありがとうございました。
 いろいろと教えてもらい、できたエプロンを家庭科の調理実習で使うことになりました。すごく楽しい調理実習になると思います。私は、初めてエプロンを作りましたが、自分でもとても満足しています。お体に気を付けてください。
 さようなら

こんにちは。
 先日の家庭科の時間では、ていねいに説明していただき、ありがとうございました。私たちは、いろいろなことを教えていただき、それをもとにエプロンを完成することができました。とてもうれしかったです。本当にありがとうございました。
 さようなら

こんにちは。
 先日の家庭科では、ていねいに説明していただき、ありがとうございました。わたしたちは、家庭科で学んだことをもとに、エプロンを完成させることができました。学習発表会で、かざった時は、とてもうれしかったです。ぜひ、いらしてください。
 さようなら

地域力を活用した豆腐づくり

～子どもたちに豊かな体験を～

～「総合的な学習の時間」の支援者として～



五城目町学校支援地域本部

五城目町立大川小学校



◇活動の紹介

実施日 平成21年11月20日(金)

場 所 家庭科室

対 象 3年生 11人

内 容 「豆腐づくりをしよう」

- ・6月に子どもたちが総合的な学習の時間で、地域の方に畑を借りて大豆を蒔いてから5か月。収穫した大豆を使って、豆腐づくりに挑戦した。
- ・「豆腐づくりの指導者を探してほしい。」という担任の希望があり、地域コーディネーターの青山さんが地域のJAあきた湖東のお二人にお願いすると、「子どもたちに食育を普及させたい。」と言って喜んで引き受けてくれた。本時は、JAの二人と青山さんが支援者となり、子どもたちと一緒に活動した。青山さんは、6月から畑の世話もしてくれた。
- ・前日から水につけておいた大豆は、3倍にも大きくなっていて、子どもたちは驚いた様子だった。作り方は、事前に学習しており、スムーズに作業が進んだ。

◇この活動を行って

実践者の声

- 支援ボランティアから
 - ・豆乳の匂いに「ぼく、このにおい好きだな。」豆腐を食べて「おいしい。」「高級な味がする。」などの声を聞いて大変うれしく思った。
 - ・豆腐づくりは子どもたちにとっての発見の連続だったと思う。これからもいろいろなものに関心をもち、発見の楽しさを味わってほしい。
- 子どもたちから
 - ・豆腐づくりは手間がかかるけれど、作った豆腐はぜいたくな味がした。
 - ・作った豆腐は高級な味がした。麻婆豆腐は今まで食べた中で一番おいしかった。
 - ・おからからケーキがつくれるなんてわからなかった。大豆は捨てるところがなくて全部食

べられることもわかった。家族にも食べさせてやりたいぐらいおいしかった。

○先生から

- ・日本の伝統的な食生活に欠かせない栄養価豊かな食物である大豆を自らの手で育て、食べるまでの活動から、知る楽しさ、作る楽しさを通して、いのちをつなぐ食に関する意識を高めたいと「大豆パワーを育てて、調べて、食べよう」という単元を設定した。教師自身の体験不足や地域の人材に関する情報が少ない中で、子どもたちに豊かな体験学習をさせるために強い味方になってくださったのが地域コーディネーターの方だった。豆腐づくりの講師探しはもちろん、畑作りや昔ながらの人の手による収穫の仕方をご指導いただいた。物を育て、作ることに携わっていらした豊かな体験による指導は、子どもたちの心と体に深く入っていくのが感じられた。

○コーディネーターから

- ・世の中が多様化され、継続して物事を考えることより断片的なことのみクローズアップされ、知識として入っていくことがはるかに多い。その中で、大豆を通してものづくりの難しさ、豆腐になるまでを追求して、最後はおからケーキ作りまでした学習は興味深い。自然食のありがたさやおいしさ、つくる喜びを体で感じている子どもたちを見るとすっきりうれしくなった。

成果、課題

「子どもたちに、自分たちで育てた大豆を使って豆腐づくりをさせたい。」という担任の希望がかなって、おいしい豆腐ができあがった。豊かな体験活動をさせたくても、指導者がいなかったり、時間がなかったりで、なかなかできないことが多い中、今回はコーディネーターの青山さんのおかげで、地域の方々の協力が得られ、大豆を育て豆腐を作る授業が実現した。

今年初めての試みということであったが、このつながりを基にこれからも食育の授業などでぜひ活用してもらいたい。

●活動のようす●



<種まき 6月8日>



<大豆の収穫 10月16日>



<乾燥させる10月16日>



<乾燥させた大豆を殻から取る 10月29日>



<豆腐づくり 11月20日>



<手作り豆腐を食べる 11月20日>

◇児童の感想

- ・大豆を植えてから収穫するまで5か月もかかった。こんなに長い間育てるのは初めてで、大豆を作るのは大変だと思った。
- ・大豆がぐんぐん大きくなってびっくりした。ぼくの家でも大豆を作っているけれど、からからとって大豆を収穫するのは初めてだった。
- ・収穫した大豆をつるつるの豆とちゃんとしてない豆に分けた。ちゃんとしていない豆を青山さんは「みじゅくものっていうんだ。」と教えてくれた。ちゃんとした豆を水につけたらすごくふくらんでつやつやしていた。
- ・最初のとねからあんなにたくさんのお豆がとれるとは思わなかった。豆腐、おから、豆乳など、大豆はいろいろな食べ物になることがわかった。
- ・大豆の選別は気が遠くなるほど細かい作業だった。でも、自分たちで食べ物を作って食べたら豆腐があんなに美味しいと初めて知った。

地域の文化、人材を 学校の教育活動に生かす取り組み

～「和楽器」と「茶道」の授業における支援～

八郎瀨中学校区地域教育協議会

八郎瀨町立八郎瀨中学校



◇活動の紹介

実施日 平成21年12月4日（金）
5・6校時

場 所 音楽室、視聴覚室
生徒会室

対 象 2年生 18名
3年生 10名

内 容 選択教科（音楽・家庭科）
指導支援

・活動にあたって

本校では、登下校時の安全・安心パトロール、学校行事等の支援、選択教科の学習支援等で、以前から地住民による学校支援活動を行ってきている。昨年度から、八郎瀨中学校区地域教育協議会を設置し、これまで培ってきた支援活動を連絡調整して更なる充実を図り、地域の教育力の振興とコミュニティの活性化を目指している。今回は、2・3年生の選択教科の学習支援の様子を紹介する。

・和楽器の学習支援について

箏と尺八の指導支援で、毎週金曜日の午後地域のお二人の方が学校に足を運んでいる。5校時は2年生、6校時は3年生の学習であった。箏は1曲弾けるようになるまで半年はかかるということであったが、2年生も上手に弾いていた。尺八は音を出すのも音を続けるのも難しいということであった。3年生は、ほとんどの生徒が2年目ということ、楽しそうに演奏していた。また、地域住民を学校に招いての学校祭や町の文化祭でも発表したということで、自信を持って演奏していた。冬休み明けには、生徒の前で授業発表会を行う予定である。発表の機会があり、生徒たちの励みになっているようである。学校の中に箏と尺八の音が響き、大変優雅であった。

・茶道の学習支援について

茶道は、教員二人、地域の方が二人で指導していた。週1回の学習であるが、半年でお点

前の半分はできたそうである。今年度末には全部できるようになる予定だ。和室に緊張感が漂っていたが、生徒たちはやり方を覚え、楽しそうであった。集中して活動している様子がひしひしと伝わってきた。茶道を通して、床の間、掛け軸などの日本の文化についても教えているということであった。普段の授業ではなかなか体験できない貴重な時間であった。

◇この活動を行って

実践者の声

○支援ボランティアから

- ・日本の文化に触れさせたいという願いを持って茶道を指導している。生徒さんたちは覚えが早くて素晴らしい。これからも楽しんでやってもらいたい。
- ・目がキラキラして、積極的に取り組んでいるのがうれしい。これからも和楽器に親んでもらいたい。

○生徒たちから

- ・和楽器は難しいが、時間をかけてやっただけ上手くなるので、もっとやりたいと思う。
- ・茶道は難しいが、とても楽しい。学校祭では家族も喜んでくれた。

○学校の先生方から

- ・地域の方々のおかげで、生徒と一緒に貴重な時間を過ごさせていただいている。町の文化祭やチャリティーフェスティバル等で、地域との交流ができてありがたい。

成果、課題

- ・地域の方々が指導してくださったおかげで、活動に対する生徒たちの興味・関心、意欲が向上した。また、支援ボランティアの方々も生徒の上達を喜んでいて、生徒たちは、学校祭や町の文化祭など発表の場があり、家族や地域住民に喜んでもらっている。

●活動のようす●



< 2年生の箏の学習 >



< 3年生の尺八の学習 >



< 3年生の箏の学習 >



< 2年生の尺八の学習 >



< 2年生の茶道の学習 >

地域人材を生かした特色ある授業実践

～子どもたちのために地域の教育力を～

～「総合的な学習の時間」のゲストティーチャーとして～

大潟村学習サポート事業運営委員会 大潟村立大潟小学校



◇活動の紹介

実施日 平成21年10月28日(水)

場所 体育館

対象 4年1組 38人

内容 「中間発表会をしよう」

・活動にあたって

本校の総合的な学習の時間の目標は、「自ら課題を見つけ、主体的に判断し、問題解決できる能力を育てるとともに、大潟村の歴史やよさに気づき、自分と結びつけて考えようとする態度を育てる。」である。子どもに付けさせたい力として、地域の「人・もの・こと」に興味をもったり疑問をもったりしたことから課題を見つけようとする、地域のよさに気づき、進んでかわりをもつことなどがある。4年生の総合的な学習の時間は大きく3つの単元からなり、本単元は「大潟村の成り立ちを伝えよう」で、総時数40時間を予定している。この単元では、創村時の様子を知る地域の方からお話を聞いたり、アドバイスをしてもらって時間を多く取り入れた。

・本日の活動について

本時では、これまで調べたことをまとめ、中間発表をした。子どもたちは生活、農業、干拓、干拓前のテーマごとに4つのグループに分かれ、発表会をした。ゲストティーチャー4人はグループに一人ずつ入って、グループごとに発表の仕方やまとめ方について話し合った。ゲストティーチャーには事前に発表内容を知らせていたので、アドバイスの内容を考えていたようだ。創村時の理念である「開拓者精神」や「進取の気概」を子どもたちに継承していくためにも、自らが村を創り上げた村民のお話は、大変有効であった。保護者や地域住民の教育への関心の高さが見られる授業であった。

・今後の予定

この後、本時の中間発表会で気づいたことを参考にし、まとめたことを見直したり、わか

ったことを付け足したりして、発表会の準備をする予定である。そして、保護者やお世話になった人を招待して、「見つけよう伝えよう私たちの大潟村」をテーマに発表会を行う予定である。

◇この活動を行って

実践者の声

- 支援ボランティアから
 - ・子ども達に教えるということより、自分が昔の事を再確認する良い機会だった。
- 子どもから
 - ・ボランティアさんが丁寧に分かりやすく教えてくれたので、とても良かった。
- 先生から
 - ・入植当時のことを知る地域の方から直接話を聞いたことは、子どもたちが調べようとしたことだけでなく、その当時の苦労や大変さを感じることができるといったよい機会となった。
 - ・自分の村の誕生に興味をもつことで、村に対する愛着心を一層強めたと思う。
- コーディネーターから
 - ・常に地域の人達は、学校や子ども達を応援してくださるので心強い。
 - ・この授業では、4年生への説明の言葉などに悩みながらも資料や写真を提供するなど、ボランティア自身が楽しみながら活動していたと思う。

成果、課題

子どもたちが「大潟村の成り立ち」をテーマに、実際に創村時の様子を知っている地域の方からお話を聞いたり調べたりする学習を通して、創村にかける人々の思いや工夫が分かり、子どもたち自身も大潟村を愛する気持ちを持つことができたと思う。

●活動のようす●



◇ゲストティーチャーへの手紙

炭元さんへ

私は、最初、「段ボールなんかで、生活できるわけないじゃん。」って思っていました。でも、よく考えたら、赤ちゃんは入る大きさだなあと思いました。私は、段ボールじゃなくて、赤ちゃん用のベッドだったからそう思ったのかもしれませんが。炭元さんへのインタビューで、昔の生活のことがいっぱい分かってよかったです。

富田さんへ

農業のことをたくさん教えてくれてありがとうございます。ぼくは、大きくなったら、農業をやる人になりたいから、「農業グループ」になりました。昔は、田んぼを牛とか馬で耕していたのは一番ビックリでした。人でもできると思っていたからです。一番知りたかった質問は、米を作る順番でした。①たねまき、②なえを育てる、③田植え、④肥料をまく、⑤しゅうかく、の順に教えてくれてありがとうございます。

広げよう 子どもの学びの世界

～「子どもカルチャースクール」に
おけるボランティアの活動～



出羽中学校区学校支援地域本部

由利本荘市立岩谷小学校



◇活動の紹介

実施日 平成21年11月～

場 所 岩谷小学校各教室

対 象 岩谷小全校児童

内 容 「子どもカルチャースクール」

各活動における支援

・活動にあたって

本校は、「保護者や地域と一緒に歩み、信頼される学校に」という考え方のもと、地域の教育力を積極的に取り入れている。今まで、環境整備や読み聞かせ、登下校指導や各種教室の補助等、様々な分野で協力をいただいていた。今年は、子どもたちの学びをより豊かにするとともに、ボランティアの輪を学習支援まで広げたいと考え、「子どもカルチャースクール」を実施している。

・「子ども絵手紙教室」

☆期日…11月11日(水)

☆対象…3年生

☆内容…「お正月やクリスマスに向けて絵手紙を作って出そう」というテーマで実施。保護者3名、地域の方々3名の計6名がボランティアとして参加し、子どもたちの手紙作成を支援した。

・「子ども料理教室」

☆期日…12月19日(土)

☆対象…全校児童(希望者)

☆内容…「バランスのとれた昼食メニューを作ってみよう」というテーマで実施。子どもが多数参加し、地域の方々3名の協力を得ながら計画を進めたが、インフルエンザのため延期となっている。

・「お楽しみ会—手品教室」

☆期日…12月24日(木)

☆対象…1～3年生

☆内容…冬休み前の学級楽しみ会にボランティアが参加し、手品を見せてくれた。また、

3年生には実際に手品を伝授するなどして、楽しみ会を盛り上げてくれた。

・「昔の遊びトライ&トライ」

1月27日(水)、1・2年生が対象。伝承遊びを教えていただく予定。

◇この活動を行って

実践者の声

○支援ボランティアから

- ・子どもたちが一生懸命でうれしかった。自分が役に立てるのであればまたやってみたい。
- ・子どもたちとふれ合うのが面白い。一緒に遊ばせてもらっている。

○子どもたちから

- ・絵手紙を出すのももらうのもうれしいことだと分かった。また教えてもらいたい。
- ・じいじ(ボランティア)が来てくれて楽しかった。

○学校の先生方から

- ・地域の先生と子どもたちがふれあう姿がよかった。
- ・私たちも子どもと一緒に楽しめた。

成果、課題

- ・地域の方々や保護者が支援に入ることによって、学習や活動に対する子どもたちの意欲が高まった。また、ボランティアの方も楽しみながら取り組んでいた。
- ・絵手紙等の制作活動では、出来栄や進度に差が出てしまうことが多い。ボランティアのおかげで、一人一人に手厚く支援することができた。
- ・地域には活用可能な教育力がまだあるはずである。学校が子どもと地域を取り持つコーディネーターとなり、子どもの学びをより豊かにしていきたい。

●活動のようす●



<うーん…何を描こうかな…？>



<マジシャン登場にワクワクドキドキ>



<みんな真剣に取り組んでいます>



<切ったはずのロープがなぜか…？>



<なるほど。そう描けばいいんだな>



<ちびっ子アシスタントも大活躍！>

「地域の学校」の 新たな取り組み

～「地域ふれあいの日」と
「なかよし清掃」～



直根小学校支援地域本部

由利本荘市立直根小学校



◇活動の紹介

実施日 毎月第2・第4水曜日
(地域ふれあいの日)
毎週水曜日
(なかよし清掃)

場 所 直根小学校多目的ホール
校内各教室

対 象 直根小全校児童

内 容 地域住民と児童の交流活動
地域住民・児童合同で清掃活動

・活動にあたって

本校では、「地域の学校」推進委員会が学校運営への提言を行い、それをもとにして様々な支援活動を行っている。今年度は、今までの活動に加えて、「地域ふれあいの日」「なかよし清掃」「読み聞かせ」の3つを新たに実施することにした。今回はその中から、「地域ふれあいの日」と「なかよし清掃」の2つを紹介する。

・地域ふれあいの日

今年度から、地域住民を学校に招いて交流活動を行っている。10月は地域のお年寄りに来ていただき、全校児童が集まって、おはじき・けん玉・お手玉・あやとり等の昔遊びを行った。子どもたちに遊び方を教えたり、一緒になって夢中で取り組んだりしている姿があちこちで見られ、有意義な交流となった。

・なかよし清掃

週1回、地域の方々が学校に足を運び、子どもたちと一緒に取り組んでいる。清掃活動は縦割りグループで行っているが、数人ずつに分かれてその中に入り、自ら帚で掃いたり雑巾がけをしたり、子どもにアドバイスしたりしながら進めている。

◇この活動を行って

実践者の声

○支援ボランティアから

- ・子どもとふれあうことで若返るように感じる。
- ・ボランティアの日は朝からウキウキする。子どもたちが様々なことを話しかけてくれ、私たちが受け入れてくれているのがうれしい。
- ・子どもたちの活発な行動や元気なあいさつ、明るい話しかけでとても楽しく活動できている。

○子どもたちから

- ・あやとりは思っていた以上に難しかったけれど、おばあさんたちが分かりやすく教えてくれた。
- ・地域の人のおかげで、掃除がはかどったし、教室もきれいになった。ぼくたちの目が行き届かなかった所もきれいにしてくれたので、すごいと思った。

○学校の先生方から

- ・日常ややもすると疎遠になる人と人との輪(和)やふれあいが実現でき、とてもよい経験になった。
- ・地域の方とかかわりをもちながら、清掃の仕方まで教えてもらえた。

成果、課題

- ・ボランティアの方々が入ってくれたおかげで、活動に対する子どもたちの興味・関心、意欲が向上した。また、支援ボランティアの方々にも喜んでもらうことができた。
- ・子どもたちは、ボランティアの方々真剣に活動している姿を見て、掃除の仕方だけでなく一生懸命働くことの大切さを学ぶことができた。
- ・ボランティアの方々からは、活動日や時間をもっと増やしていきたいとの提案をもらっている。来年度の活動につなげていきたい。

●活動のようす●

1 「地域の学校」推進委員会

(1) 趣旨

- ・地域とのパイプ役として積極的に提言してもらい、学校の教育活動に生かす。
- ・「地域に開かれ、地域に信頼される学校づくり」を維持・発展させる。

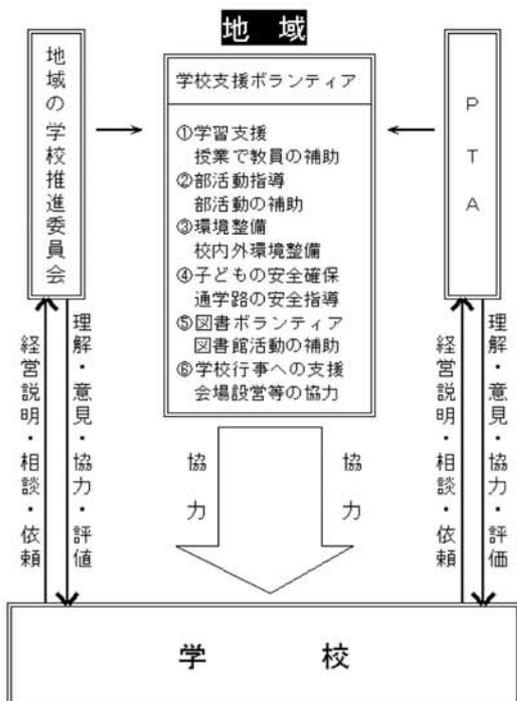
(2) 推進委員

- ・メンバー：地域住民17人＋学校関係者3人＝計20人
- ・委員は、商店主・婦人会長・民生児童委員・町内会長のほか、地元の伝統芸能である本海番学、前ノ沢太鼓の伝承関係者ら。

(3) 学校支援ボランティア

- ・平成21年5月1日現在、登録者数66人。
- ・学習支援、安全パトロール、学校行事の支援、環境整備ほか。

2 「地域の学校」の組織



<「地域の学校」推進委員会の概要>



<地域ふれあいの日…みんなであやとり>



<地域ふれあいの日…楽しくお手玉>



<みんなでなかよく清掃活動>



<地域ふれあいの日…ボランティアとの顔合わせ>



<掃除の仕方も教えてもらえます>

みんな大好き マル付け先生

～算数学習における

ボランティアの取り組み～

にかほ市学校支援地域本部実行委員会

にかほ市立象潟小学校



◇活動の紹介

期 間 平成21年10月～

場 所 象潟小学校 1～3年教室
各学年ホール

対 象 1～3年児童

内 容 ・算数における補充学習支援

・活動にあたって

学習の際には、児童一人一人の状況を把握した上で、適切な支援を行わなければならない。しかし実際には、人数等の関係もあり、なかなか容易なことではない。特に算数では、採点に時間をとられてしまい、もっと個別に支援したくてもなかなかできない場合も多い。そこで、ボランティアに採点をお願いし、教師はできるだけ個に対応できるように体制をつくり、活動することにした。

・事前準備

ボランティアと担当との間で、学習内容、採点の仕方、児童への対応等について、事前に打ち合わせを行った。また、子どもたちに対しては、「マル付け先生が来るよ」と予告しておき、意欲を高めるようにした。

・実際の活動

教室からプリントを持ってくる子どもたちをホールで待っていて、採点、声かけをしてもらった。教師は、できるだけつまずきが見られる子どもたちの支援にあたることにした。「マル付け先生」は子どもたちに大人気で、他の採点者（教師）の場所が空いていても、マル付け先生の所に大勢が並ぶような状態であった。採点や声かけをしてもらい、満面の笑顔で教室に戻っていく姿があらこちらで見られた。

◇この活動を行って

実践者の声

○支援ボランティアから

- ・自分自身楽しみながらやっている。採点してあげることで、子どもたちが喜んでくれることがうれしい。
- ・全校テストの採点など、他にもお手伝いできることがあると思う。子どもたちの活動をいろいろな面から支援していきたい。

○子どもたちから

- ・プリントまつりにマル付け先生が来てくれると聞いたので、すごくやる気が出た。
- ・プリントに100点と書いてもらってとてもうれしかった。
- ・分からなくて困っている時、助けてくれるところがよかった。

○学校の先生方から

- ・ボランティアの方々が入ることによって、子どもたちの意欲が高まった。これからはいろいろな活動に入って欲しい。
- ・採点の際の子どもの待ち時間が少なくなり、多くの問題に取り組むことができた。
- ・教師が、より手厚い個別支援にあたることができた。

成果、課題

- ・教師以外の方が学習支援に入ることによって、学習に対する子どもたちの意欲が増した。
- ・採点の部分ボランティアに任せると、教師が個別の支援にあたる時間を十分に確保できた。
- ・ボランティアの方々からは、別の活動でも協力したいとの前向きな提案をいただいている。現在は算数中心であるが、ボランティアチームを組織して、他の教科で支援に入っていくことも検討中である。

●活動のようす●



<マル付け先生に興味津々>



<自分のペースで取り組む子どもたち>



<100点取れるかな…>



<先生方は個別支援へ>



<子どもたちのやる気があふれています>



<マル付け先生に並ぶ子どもたち>

「技」も「心」も高まる 柔道指導支援

～選択体育における
ボランティアの取り組み～

にかほ市学校支援地域本部実行委員会 にかほ市立金浦中学校



◇活動の紹介

期 間 平成21年11月～

場 所 金浦中学校 体育館

対 象 保体科で柔道を選択した生徒

内 容 柔道実技指導支援

- ・活動にあたって
保健体育科における柔道指導は、実技はもちろん、礼儀作法や精神的な面も含めて、専門家による指導が有効である。本校出身者で柔道部OBであるボランティアが指導支援に来てくださることになり、全学年の柔道の授業に参加してもらうことにした。
- ・事前・事後指導
畳の準備、柔道着の着方、正座やあいさつの仕方等の事前から、柔道着のたたみ方、後片付け等の事後まで、自ら見本を示しながら丁寧に教えてくれた。
- ・実技指導
受身、組み手、技のかけ方や受け方等、専門的な観点からの確かなアドバイスをしてくれた。また、ゲームの要素を取り入れたり、乱取りを多く取り入れたりして、子どもたちの意欲を高めることに努めていた。安全面にも十分な配慮が見られた。

◇この活動を行って

実践者の声

- 支援ボランティアから
 - ・自分自身楽しんでやっている。学んだことや経験したことを生徒に伝えられるのがうれしい。お世話になった方々への恩返しと考えている。
 - ・柔道には、「痛い」「大変」といったイメ

ジがある。受身等も地味で生徒はあまりやりたがらない。そこで、ゲーム的な要素を取り入れて楽しくできるようにしている。

- ・ただ楽しいだけではなく、礼儀はきちんと教えたい。押さえるところはきちんと押さえて生徒に接したい。

○子どもたちから

- ・柔道はきついイメージがあったが、楽しくやることができた。
- ・細かい足の配り方や相手をくずす方法を、実際に見せながら教えてくれた。
- ・柔道着のたたみ方や礼の仕方などの礼儀作法をきちんと教えてくれて良い。
- ・自分の父親の幼なじみで、とても話しやすい。でも厳しいところは厳しくしてくれる。

○学校の先生方から

- ・危ない、危なくない等も含めて、教師だけでは教えられない専門的な部分をフォローしてくれる。
- ・子どもたちとのかかわり方が素晴らしい。生徒とは一線を画して、礼儀作法等を厳しく教えてくれている。
- ・学校が活性化している。「限られた時間で一生懸命教えてもらおう」という意識が出てきている。

成果、課題

- ・支援ボランティアが学習に入ってくれることで、専門的な内容を子どもたちに身に付けさせることができた。
- ・教師以外の地域の人々が授業に参加することで、子どもたちの意欲が増し、学校全体が活性化してきた。
- ・他の教科・分野でも、教師だけではカバーできない専門的な知識を必要とするものがある。地域の教育力を掘り起こし、学習を支援してもらおう体制をつくり上げていきたい。

●活動のようす●



<学習の始まりはあいさつから>



<乱取り形式の練習>



<受身は大切>



<ボランティア自ら稽古をつけます>



<一人一人に厳しい目を注ぎます>



<ピリッとした空気が畳の上に>

大豆が変身！ 豆腐とおから炒め

～総合的な学習の時間における
ボランティアの取り組み～



にかほ市学校支援地域本部実行委員会

にかほ市立院内小学校



◇活動の紹介

実施日 平成21年10月15日(木)

場 所 院内小学校家庭科室

対 象 院内小学校3年生

内 容 ・豆腐作り支援
・おから炒め作り支援

・活動にあたって

3年生は、総合的学習「にかほの美味しいもの見つけた」の中で、題材の1つに大豆を取り上げて学習を進めている。学習を通じ、大豆が様々な食品の原料になっていることを知った子どもたちは、実際に作ってみたいという意欲をもち始めた。そこで、地域の方々の力を借りながら、活動に挑戦してみることにした。

・事前指導

地域の伝統食サークルの方々に相談したところ、ボランティアとして参加していただけることになった。JAの方からも助言をいただき、豆腐とおから炒め作りを行うことに決定した。レシピは事前に送ってもらい、子どもたちに渡しておいた。また、子どもたちのために、事前に豆腐について調べる時間を設けておいた。

・実際の活動

子どもたちは、4グループに分かれて活動を行った。ボランティア6名は、材料を計りとり場所やガスコンロ回りにつく人、自由に歩き回りアドバイスする人等、役割分担しながら子どもたちの活動を支援した。子どもたちの自主的な活動を保障しつつ、必要な時は適切な声かけを行っていた。安全面にも気を配り、危ない場面では素早く対応していた。

◇この活動を行って

実践者の声

○支援ボランティアから

- ・子どもたちが喜んでいる姿を見るのがうれしい。活動の励みになる。
- ・学校だけでなく、家でも作ってみてね、と呼びかけている。伝統食を家庭や地域に広げ、大切にしていって欲しいと思っている。

○子どもたちから

- ・教えてもらった通りにすりつぶした大豆をゆでると、とてもいいかおりがした。自分たちで作った豆腐料理はとてもおいしかった。
- ・ボランティアの人たちが作り方をしっかりと教えてくれた。今度ぜひ家でも作ってみたい。

○学校の先生方から

- ・子どもたちの「作りたい。」という思いを、ボランティアの方々の協力でかなえることができうれしい。
- ・このような体験を行うことは、単に知識・技能を身につけるだけではなく、地域に根ざした「知恵」を学ぶことにもなる。今後も、このような学習の機会を設けていきたい。

成果、課題

- ・ボランティアの方々が学習に参加することにより、子どもたちの意欲が高まった。ボランティアの方々も、喜んで活動に協力してくれた。
- ・調理の場合、器具や火気を使うため、様々な危険が予想される。ボランティアに入ってもらったことで目配りができ、危険性を減らすことができた。
- ・地域住民の中には、特技や学校に協力したいという思いをお持ちの方がまだまだいるはずである。どんどん学校に足を運んでもらい、地域と学校が一体となって、子どもたちの学びをより豊かにする体制を作り上げていきたい。

●活動のようす●



<豆腐作り、いよいよスタート！>



<大豆をミキサーにかけたところです>



<ボランティアの方々との顔合わせ>



<やけどには十分気をつけて>



<包丁を使う時は左手をネコの手に>



<意欲的に活動する子どもたち>